

福島第一原子力発電所の状況

2015年4月9日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (4/9 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度	
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.0 m ³ /h	16.6 °C	0.4 kPa g	A系： 0.01	vol%
		給水系：約2.5 m ³ /h			B系： 0.00	vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.3 m ³ /h	23.1 °C	5.16 kPa g	A系： 0.07	vol%
		給水系：約2.0 m ³ /h			B系： 0.06	vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.4 m ³ /h	20.0 °C	0.20 kPa g	A系： 0.07	vol%
		給水系：約1.8 m ³ /h			B系： 0.07	vol%

<2. 使用済燃料プールの状況> (4/9 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	15.0 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	16.0 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	12.3 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	9.7 °C

※ 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)	3/26 10:14 ~ 4/9 10:02 移送実施
3号機	3号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋)	4/8 10:08 ~ 移送実施中

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (4/9 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設 備(ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多核種 除去設備
運転 状況	運転中*1	停止中*1	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中*2	ホット試験中*2	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

<5. その他>

- ・地下水流入抑制対策による地下水位の低下に伴い、建屋滞留水水位を低下させる必要があり、建屋内に滞留水移送ポンプ並びに水位計の設置を進めている。(新たに削孔した穴より水位を測定した結果は 2015/3/26 に公表済み)

このうち、1号機タービン建屋所内ボイラー室水位は以下の通り。

- ・1号機タービン建屋所内ボイラー室水位: O.P.4900mm(3/17 測定)

各建屋の連通性がない独立したエリアについては、設置する滞留水移送ポンプでの移送が困難なことから、仮設ポンプを使用しての移送を 4/8 以降、順次開始する予定。1号機所内ボイラー室および1号ディーゼル発電機(B)室内の滞留水の移送先は、1号機タービン建屋の予定。

建屋周囲の地下水位は継続監視をしており、4/7 17 時時点における1号機タービン建屋所内ボイラー室近傍のサブドレン(N1)水位で O.P.4906mm(4/4 測定:4917mm)。

- ・1号機タービン建屋近傍サブドレン水位が所内ボイラー室水位より低い状態になったことを4/7 18:14に確認し、水位を注視していたが、その時点では所内ボイラー室は、他のエリアとの連通性がないことから、特定原子力施設に係る実施計画 Ⅲ特定原子力施設の保安(以下、「実施計画」という)第1編第 26 条「建屋に貯留する滞留水」に該当する建屋には含まれないと考えていた。

その後、総括的に検討を重ねた結果、連通性がない所内ボイラー室についてもタービン建屋の一部であることから実施計画第1編第 26 条「建屋に貯留する滞留水」に該当する建屋に含まれるものと判断。

このため、4/9 1:10、実施計画第1編第 26 条「建屋に貯留する滞留水」の表 26-2で定める1号炉タービン建屋の滞留水水位の運転上の制限*「各建屋近傍のサブドレン水の水位を超えないこと」を満足できていないと判断。

判断時の水位は以下の通り。

- ・近傍サブドレン水位: OP 4,885mm(4/9 0:35)
- ・所内ボイラー室水位: OP 4,900mm(4/8 13:40)

所内ボイラー室水位については、3/17 に測定した値(OP 4,900mm)から変化がないため、所内ボイラー室内水の外部への流出はないものとする。

1号機タービン建屋所内ボイラー室の滞留水については、4/9 13:02 より1号機タービン建屋へ移送を開始。

今後、所内ボイラー室内の滞留水の移送を継続し、所内ボイラー室水位が近傍サブドレン水位を超えない状態に復旧する。また、近傍サブドレン(N1)水の放射能濃度を測定する。

特定原子力施設に係る実施計画 Ⅲ特定原子力施設の保安第1編第26条に基づき、塩分濃度による比重を考慮した補正值を用いた、滞留水の水位は以下の通り。

- ・1号機所内ボイラー室水位 (4/9 11:00)
実測値: OP 4,900mm
補正值: OP 4,980mm
- ・1号機ディーゼル発電機(B)室水位 (4/9 11:00)
実測値: OP 4,650mm
補正值: OP 4,774mm

1号機ディーゼル発電機(B)室近傍のサブドレン(No.1)の水位については、同日 13:30 時点においてOP 4,714mm となっており、上記ディーゼル発電機(B)室の補正水位を下回っていることを同時刻に確認したが、他のエリア(建屋内)から流入がないこと(連通性がない)、およびディーゼル発電機(B)室水位に変動がないことから、外部への流出はないと考える。

なお、実施計画第1編第 26 条に定める運転上の制限「各建屋近傍のサブドレン水の水位を超えないこと」を満足できていないことの判断については、先に1号機タービン建屋の水位が近傍のサブドレン水位を超えていると判断。

今後、ディーゼル発電機(B)室内の滞留水の移送を行うとともに、近傍のサブドレン(No.1)水の放射能濃度を測定。

***: 運転上の制限**

実施計画では、原子炉の運転に関する多重の安全機能の確保及び原子力発電所の安定状態の維持のために必要な動作可能機器等の台数や遵守すべき温度・圧力などの制限が定められており、これを運転上の制限という。実施計画に定められている機器等に不具合が生じ、一時的に運転上の制限を満足しない状態が発生した場合は、要求される措置に基づき対応する。

- 2015/2/5～ 3号機海水配管トレンチの閉塞を目的とした閉塞材料の充填作業を開始。
その後、4/2 よりトンネル天井部の充填作業を開始、4/8 までにトンネル部全体の充填が完了するとともに、同量の滞留水の除去が完了。
今後、準備が整い次第、トンネル部の充填状況を確認するための揚水試験を実施する予定。
- 2015/2/14～ 4号機海水配管トレンチの閉塞を目的とした閉塞材料の充填作業を開始。
2015/2/24～ 2号機海水配管トレンチの閉塞を目的として、立坑への閉塞材料の充填作業を開始。
立坑A、Dともに、4/7 までに1サイクル目の充填が完了したことから、4/9、立坑A・Dの1サイクル目の充填状況および、トンネルA・Cの連通量の改善状況を確認することを目的に、揚水試験を実施。試験の結果については、取りまとまった段階でお知らせさせていただく。
- 2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。
- 2015/3/16～ 1号機原子炉建屋カバー解体工事に向けて準備工事を開始。
- 2015/4/4 地下水流入抑制対策による地下水位の低下に伴い、建屋滞留水水位を低下させる必要があり、建屋内に滞留水移送ポンプ並びに水位計の設置を進めている。新たに削孔した穴より水位を測定した結果は 2015/3/26 に公表済みであり、このうち、1号機タービン建屋所内ボイラー室水位は O.P.4900mm (3/17 測定) である。
一方、周囲の地下水位は継続監視しているが、最近、降雨量が少ないことから低下傾向が見られ、4/4 に測定した同ボイラー室近傍のサブドレンN1の水位は、O.P.4917mm だった。
なお、同ボイラー室は他のエリア(建屋内)からの流入がない(連通性がない)こと、および建屋外からの地下水の流入がないことを確認している。
- 4/5 12 時時点におけるサブドレンN1の水位は O.P.4943mm であり、水位が 4/4 から上昇。4/5 は福島第一原子力発電所構内において降雨が見られている。
今後も水位監視(同ボイラー室水位およびサブドレン水位)を継続するとともに、準備が整い次第、同ボイラー室からの滞留水の移送を行う。
- 4/8 同ボイラー室および1号ディーゼル発電機(B)室については、仮設ポンプを使用して1号機タービン建屋への移送を順次開始予定。なお、同ボイラー室の水位と近傍のサブドレン水位の逆転の可能性があることについて、4/4 より水位の監視をしているが、4/7 17:00 時点におけるサブドレン N1 水位で O.P.4906mm だった。

【地下水バイパス揚水井の状況】

- 地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】

<地下水観測孔サンプリング実績>

- 4/8 に採取した地下水観測孔 No.3の汲み上げ水について、全ベータの値が 390 Bq/Lと前回値(4/1 採取分:検出限界値 21 Bq/L 未満)と比較し高い値を検出。
地下水観測孔 No.3の海側にはウェルポイントがあり、汲み上げを行っている。さらに海側には、地盤改良壁が設置されており海への影響はないものと考えている。
その他の地下水観測孔の測定結果については、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<地下貯水槽サンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上